

# 令和4年度 多良中学校 校内研究計画（案）

## 1 研究主題

「わかる」を実感できる授業展開による自己肯定感の育成」

～基礎学力の定着と学び合いにより、生徒一人ひとりが“わかる”を実感できる授業を目指して～

## 2 主題設定の理由

昨今、SDGs（持続可能な開発目標）を達成するために、世界中が行動を始めた。SDGsの基本理念に「誰も置き去りにしない」という考えがある。これは教育現場にも当てはまることである。クラスの中には学習に困難を抱えている生徒、学習進度に遅れが出る生徒が存在する。このような生徒を我々教員は決して置き去りにしてはならない。学習の困難さ、遅れが自己肯定感醸成の妨げになるケースは多々ある。「できない」「わからない」という意識が「学校が楽しくない」という意識につながり、怠学ひいては不登校を生み出してしまう可能性がある。このような状況を避けるためにも、我々教師は生徒一人ひとりが“わかる”授業を展開していく必要があると考える。

また、新学習指導要領では、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力となる力を、ア 生きて働く「知識・技能」の習得、イ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、ウ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、の三つの柱に整理されている。「知識・技能」が一つの評価基準に統一されたことを受け、基礎学力定着の重要性を改めて見直さなければならないと考える。基礎学力を身につけなければ技能の向上は図れず、さらには「思考力・判断力・表現力」向上の妨げにもなると考えるからである。

そして、生徒の自己肯定感を醸成するために欠かせないのが学び合いの活動である。グループ活動や時間旅行といった活動を通して、互いの考えを共有しながら個々の深い学びへとつなげることで、「学ぶことの意義や楽しさ」を感じさせ、主体的に学びに向かう生徒の育成を目指したい。

以上のことから、今年度は、本研究主題を「“わかる”を実感できる授業展開による自己肯定感の育成」とし、基礎学力の定着と学び合い活動を効率的に仕組んだ授業を展開することで、生徒一人ひとりに「わかる」を実感させることを目標とする。

## 3 研究の目標

### (1) 生徒が“わかる”を実感できる授業づくり

授業においては、①基礎学力の定着に向けた効果的な指導法を考える。 ②生徒が身に着けた知識を活かし、主体的に学ぶ場面を設定する。 ③授業や単元の終末には「ふり返し」を行い、個別の知識を関連付けながら生徒自身の言葉で文章化させることで概念的知識として定着させる。この3つの柱で生徒の知識・技能の向上を図る。

### (2) 家庭学習の充実化

生徒に家庭学習を身に着けさせるための具体的な方策を検討し、実施する。自主学習ノートをはじめとする各教科の課題の内容や量を検討し、授業と併せて、生徒の基礎学力定着に取り組む。

#### 【数値目標…佐賀県学力状況調査の知識・技能観点の対県比】

##### ○1年生

	本年度目標
国語	1.0
社会	1.0
数学	1.0
理科	1.0
英語	1.0

##### ○2年生

	対県比	本年度目標
国語	0.99	1.01
社会	0.90	1.00
数学	0.95	1.05
理科	1.16	1.10
英語	1.00	1.05

##### ○3年生(セミナーテストの到達目標)

	対県比	本年度目標
国語	1.10	60%
社会	0.82	60%
数学	1.00	60%
理科	1.03	65%
英語	0.86	60%

#### 4 研究の仮説

3つの柱を意識した授業改善と、家庭学習の習慣化を併せて行うことで、基礎学力が定着し、生徒は“わかる”を実感することができるようになり、学習における生徒一人ひとりの自己肯定感の醸成をすることができる。

#### 5 研究内容

(1) 基礎学力の定着に向けた効果的な指導法を考える。

ア 授業開始時に前時の学習を復習する。定期的・計画的な小テスト・単元テストを実施する。  
口頭での復習や、生徒同士で問題を出し合うなどの活動を伴う復習を実施する。

(2) 生徒が身に着けた知識を活かし、主体的に学ぶ場面を設定する。

ア 生徒の学習意欲をかりたてる「めあて」を提示するとともに、生徒が主体的に学び合うための「問い」を設定する。  
イ 生徒同士で教え合う、または意見交換により、考えを深めるなどの「学び合い活動」の時間を効果的に設定する。【グループ活動，時間旅行】

(3) 授業や単元の終末には「ふり返し」を行い、個別の知識を関連付けながら生徒自身の言葉で文章化させることで概念的知識として定着させる。

ア 毎時間もしくは単元ごとに「ふり返し」の時間を設定し、自分自身の言葉で学んだこと、考えたことを文章化する時間を設ける。

#### 【授業の流れ】

	生徒の活動	教師の支援
つかむ	①前時までの学習を復習する。	授業の始めに前時までの学習を復習する。小テスト・口頭での復習・P.Pなどで行う。可能な限り、本時の授業との関連性をもたせることで本時の学びにつなげる。
	②「めあて」を書き、本時の学習すべき内容とゴールを把握する。	生徒の学習意欲をかりたてるような「めあて」を設定。（～を比べて見よう，～を友達に説明しよう，など）
深める	③グループ活動，時間旅行などにより，考えを深める。	生徒が身につけた知識を活用し，主体的に学習できる場面を設定する。課題や「問」を設定し，協働により考えを深めさせる。
ふり返る	④「ふり返し」を書き，本時または本単元のふり返しを行う。	本時または本単元で学んだこと，感じたこと，疑問思ったことを書かせ，生徒の定着度を確認したり，次の授業で紹介したりするなどして活用する。

(4) 家庭学習の習慣化を図る。

ア 家庭学習の充実(各教科ごとの課題の内容と量の検討。自主学習ノートの活用法や宿題の工夫)を図り，学力向上につなげる。  
イ 家庭学習チェックシートの有効利用と，生徒の変容を調査する。

## 6 研究の方法

### (1) 授業研究会による成果の検証

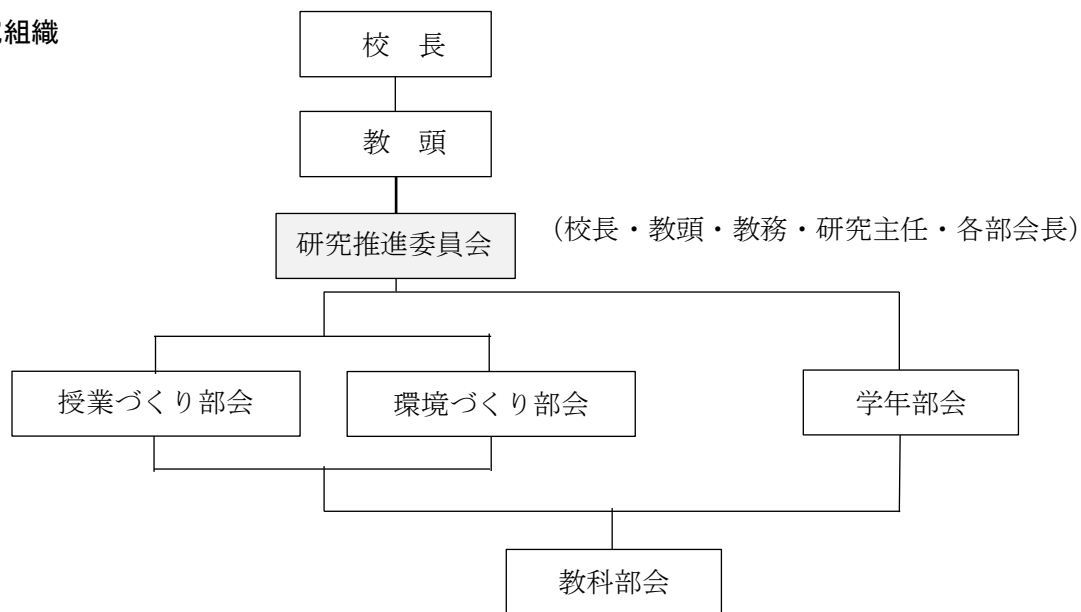
- ア 1学期に1回，2学期に1回，授業研究会を行う。(道徳1回，教科1回)
- イ 定期的に部会を開き，研究の方向性を吟味する。
- ウ 研究の県学習状況調査の比較・検証する。

### (2) 講師招聘および研究発表会への参加 (※小園先生に協力をお願いする)

## 7 検証方法

- (1) 授業やアンケート調査における自己評価や学習成果をもとに，生徒の学習状況の変容を検証する。
- (2) 授業研究会を実施することで，研究仮説を検証する。

## 8 研究組織



各部会	研究内容
研究推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の骨格・基本的事項を立案し，全体研究会に提案する。</li> <li>・各研究部の支援を行う。</li> <li>・講師招聘，授業研究会の企画，運営を行う。</li> </ul>
全体研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に関する内容を協議する。</li> <li>・各部会の報告を受け，改善に向けて協議する。</li> <li>・各教科の連携を密にし，授業研究会を通して指導法等の研鑽を積む。</li> </ul>
授業づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“わかる”授業を目指した研究授業の提案と授業研究会の準備を行う。</li> <li>・指導案様式を検討する。(研究授業の指導案検討をふくむ。)</li> <li>・各教科の連携を図り，全職員で取り組む指導法についての共通理解を促す。</li> </ul>
環境づくり部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>家庭学習の充実を図る。</b></li> <li>・学習環境の整備を行う。</li> <li>・朝読書，朝学習の充実を図る。</li> </ul>
学年部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の実態把握 (QU分析) を行う。</li> </ul>
教科部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画の立案・検討を行う。</li> <li>・研究授業における指導案を検討する。</li> <li>・各教科で情報を共有し，全職員で取り組む指導法を検討，実践する。</li> <li>・県学習状況調査の分析</li> </ul>

## 9 年間計画

	月 日	計画
第1回	4月 27日	校内研究提案
第2回	5月 18日	第1回各部会（各部会方針）
第3回	6月 29日	第1回校内研究授業および授業研究会（道徳：百武先生）
第4回	8月 1日	QU分析
第5回	10月 5日	第2回各部会（各部会中間とりまとめ）
第6回	12月 7日	第2回校内研究授業（ : 先生）
第7回	1月 25日	各部会のまとめ
第8回	2月 15日	校内研究まとめと次年度に向けて

※校内研究授業前，必要に応じて指導案検討（校内研修）の時間を設定する。

※10月27日 町教委訪問 全先生方 公開授業

## 10 校内研究各部会メンバーと今後の取り組み

部会	メンバー	今後の取り組み
授業づくり部会	◎枳原先生、山北先生、本山先生 前田先生、百武先生、竹下先生 中島	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力定着に向けた具体的取組を検討</li> <li>・効果的な学び合い活動の検討</li> <li>・ふり返しシートの検討</li> <li>・指導案検討</li> </ul>
環境づくり部会	◎尾形先生、菰田先生、相坂先生、 下村先生、中野先生、原口先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の充実を図る。</li> <li>・学習環境の整備を行う。</li> <li>・朝読書，朝学習の充実を図る。</li> </ul>